

昭和60年度共通第1次学力試験 説明協議会の開催 (昭和59年8月 全国7地区)

大学入試センターでは、毎年、大学入学者選抜共通第1次学力試験の実施方法等の周知と連絡協議を目的として、高等学校、教育委員会、PTA等関係者を対象とした説明協議会を全国7地区で開催しているが、本年度も8月初旬にこれを開催し、約3,470人(2,300校)の関係者が出席した。

なお、各地区における出席者及び質問事項の取りまとめ、会場の設営、受付等については、北海道教育大学、山形大学、名古屋大学、神戸大学、山口大学、熊本大学の格別の御協力をいただいた。

1 説明及び協議の内容

この説明協議会には、当センターから所長又は副所長と担当部課長等が出席して説明、協議を行い、また、当センターの実施方法専門委員会の委員も分担して出席し、説明、協議について助言を行った。

説明は、出願方法や解答する科目の選択方法等を中心に行われ、また、協議もこれに関連して行われたが、その主要な点について、説明及び質疑に

対して行われた回答の内容も含めて取りまとめて御紹介すると次のとおりである。

(1) 「受験案内」に掲載された試験問題冊子の注意事項と解答用紙の様式の見本について

昭和60年度大学入学者選抜共通第1次学力試験では、新教育課程による出題教科・科目が適用され、あわせて旧教育課程履修者に対しては経過措置が講じられる。このことに伴い、特に社会、理科等において解答する科目の選択方法が複雑になるので、選択誤りの防止等を考慮して、今回初めて、「受験案内」の26～35ページに試験問題冊子の注意事項（科目選択に係る事項を抜粋）及び解答用紙の様式の見本が新たに掲載された。これについて、入学志願者に熟読させ、かつ、御指導いただいて、受験する前に十分理解させておいていただきたい。

(2) 社会及び理科の試験問題冊子と解答用紙

社会（日本史と世界史を除く。）及び理科は、新・旧別問題が出題されるが、それらの問題は同一の試験問題冊子に

編集され、また解答用紙は、同一の用紙を使用することになる。

(3) 新教育課程履修者の選択方法等

新教育課程履修者とは、全日制高等学校（盲・ろう・養護学校の高等部を含む。）に昭和57年4月に入学し、昭和60年3月に卒業見込みの者である。

① 社会について

試験問題冊子の前半に、現代社会A群（現代社会）、B群（倫理、政治・経済）、日本史、世界史、地理A群（地理）の順で出題されている。

新教育課程履修者は、現代社会A群又はB群のいずれか一つを必ず選択し、さらに日本史、世界史、地理A群の中から1科目を選択し、計2科目の解答を要する。現代社会A群、B群は、高等学校で「現代社会」を履修したか、それに替えて「倫理」「政治・経済」を履修したか否かを問わず、いずれか一つを選択できる。

② 理科について

試験問題冊子の前半に、理科I、物理、化学、生物、地学の順で出題されている。新教育課程履修者は、理科Iは全員解答し、さらに物理、化学、生物、地学の中から1科目を選択し、計2科目の解答を要する。

③ 数学について

試験問題冊子には、数学I、数学II、工業数理、簿記会計I・IIの順で出題

されている。数学Iは、問題番号I・II・IIIの3問全部を全員が解答を要する。数学II、工業数理、簿記会計I・IIには、いずれにも問題番号IV・V・VIの番号を付して3問出題されており、その中から2問を選択して解答を要する。3問中どの2問を選択したかは、解答用紙の第2面の「選択問題群」欄にマークして表示する。このマークは、試験開始後に解答する問題を決めた後にすることになるので、忘れないように注意する必要がある（工業数理、簿記会計I・IIは、所定の申請をして受験を承認された者だけが解答できる。）。

(4) 旧教育課程履修者の選択方法等

旧教育課程履修者には、新教育課程履修者以外のすべての者を含む。したがって、高等学校の既卒者のほか、例えば昭和56年4月に入学し、1年間留学や病気等により休学して昭和60年3月に卒業する見込みの者や定時制・通信制課程卒業見込者、高専3年修了者・修了見込者、大学入学資格検定合格者・合格見込者などもこれに含まれる。

① 社会について

上述した試験問題冊子の前半の出題に続けて、「このページ以降の問題は旧教育課程履修者のみが選択できる問題である」旨の間紙が入り、その次に現代社会C群（旧倫理・社会）、D群（旧

政治・経済）、地理イ群（旧地理A）、ウ群（旧地理B）の順で出題されている。旧教育課程履修者は、現代社会、日本史、世界史、地理の中から2科目を選択し解答を要する（ただし、現代社会を選ぶ場合は、A～Dの4群の中から1群だけ、地理を選ぶ場合はA～ウの3群の中から1群だけ選択解答できる。）。したがって、例えば新教育課程の現代社会A群（現代社会）と旧教育課程の地理イ群（地理A）の2科目というように、新・旧クロスして2科目を選択することもできることになる。なお、試験問題冊子のページの立て方としては、例えば現代社会B群（倫理、政治・経済）の中の一部の問題と現代社会D群（旧政治・経済）の問題とが同じ問題が出題されていることがあったとしても、その両群のページにそれぞれ同一問題が印刷されており、群ごとにまとめられている。

② 理科について

上述した試験問題冊子の前半の出題に続けて、社会と同様の間紙が入り、その次に旧物理I、化学I、生物I、地学Iの順で出題されている。旧教育

課程履修者は、理科Iを選択する場合は、もう1科目は物理、化学、生物、地学から選択することを要し、理科Iを選択しない場合は、旧物理I、化学I、生物I、地学Iの中から2科目を選択し解答することを要する。なお、所定の申請をして受験を承認された者は、基礎理科1科目を解答することになる。

③ 数学について

社会、理科のような新・旧別問題は出題されないが、数学Iと数学IIの問題の中に旧数学Iが理解できていれば解ける問題が解答必要数出題されている。なお、所定の申請をして受験を承認された者は、数学一般1科目を解答することになる。

(5) 解答用紙のマーク

解答用紙の受験番号、解答する科目（問題群）名及び数学II、工業数理、簿記会計I・IIの選択問題群について、正しくマークされていない場合は、採点できないことがあるので、絶対に誤りのないように注意する必要がある。

2 開催状況

地 区	開催日時	会 場	人 数（高校数）
北 海 道	59年 8 月 6 日	共済ホール	約 150人 (121校)
東 北	8 月 9 日	山形厚生年金休暇センター	約 270人 (162校)
関東甲信越	8 月 1 日	虎の門ホール	約1,000人 (680校)
東海・北陸	8 月 2 日	名古屋大学豊田講堂	約 500人 (342校)
近 畿	8 月 9 日	明石市民会館	約 750人 (455校)
中国・四国	8 月 2 日	「かめ福」 2 階ロイヤル ホール（山口）	約 350人 (260校)
九州・沖縄	8 月 6 日	郵便貯金会館（熊本）	約 450人 (280校)
計			約3,470人 (2,300校)

配付資料

- (1) 昭和60年度大学入学者選抜共通第 1 次学力試験実施要項
- (2) 昭和60年度大学入学者選抜共通第 1 次学力試験受験案内
- (3) 昭和60年度大学入学者選抜共通第 1 次学力試験受験案内（別冊）
- (4) 昭和60年度大学入学者選抜共通第 1 次学力試験志願者の出願書類取りまとめ，提出等について（依頼文書）
- (5) 昭和60年度大学入学者選抜共通第 1 次学力試験の試験期日等の主な改正点及び試験実施に関連する事項の協力について（依頼文書）
 - 〔5－2〕 昭和60年度大学入学者選抜実施要項
 - 〔5－3〕 昭和60年度大学入学者選抜共通第 1 次学力試験出題教科・科目の出題方法等について（通知文書）
- (6) あらかじめ提出された質問事項
- (7) 共通 1 次試験（昭和60年度版）
- (8) 大学入試フォーラム（No.3）